

会議名	令和6年度 第1回 数理・データサイエンス・AI 教育推進委員会	場所：小会議室	議事録作成者：今村
日 時	令和6年5月10日（金）10：00～10:40		
出席者	近藤（委員長）、村田、今村（オブザーバ）村若学長、濱田		
欠席者	内田、久留須		
協議題等		結論若しくは協議内容の要約	
（協議事項） 1. 数理・データサイエンス・AIに関する教育課程（ICTによる地域活性化を担う女子学生のためのデジタル教育プログラム）について 2. 1 年次修了者の認定について 3. 数理・データサイエンス・AI 教育（ICTによる地域活性化を担う女子学生のためのデジタル教育プログラム）の自己点検・評価について		近藤委員長から、数理・データサイエンス・AI に関する教育課程（ICT による地域活性化を担う女子学生のためのデジタル教育プログラム）について諮られ、当該教育課程は、R5 年度入学生から適用しており、今年度が当該課程の「プラス」の初年度となることから、当分の間、当該教育課程を維持することが確認された。 併せて教務課長から、当該教育課程の 2 年次科目は、今年度からの開始であり、全学科共通科目であることから、各学科 2 年次の専門科目と重複しないように時間割を組み、2 年次前期の「データサイエンス演習」は金曜日の 5 コマ目に、2 年次後期の「AI プログラミング」は水曜日の 5 コマ目に設定している旨の説明があった。 近藤委員長から、1 年次の当該課程の修了者について諮られ、教務課長から資料に基づき説明があり、次のとおり了承された。 【児童教育学科】64 名 「情報機器演習」必修 「AI 社会論」又は「データサイエンス概論」 【生活科学科食物栄養学専攻】19 名 「情報機器演習」必修 「AI 社会論」又は「データサイエンス概論」 【教養学科】45 名 「情報活用」必修 「AI 社会論」又は「データサイエンス概論」 （履修者増に向けて） 近藤委員長から、当該教育課程の履修者増に向けて検討願いたい旨の説明の後、教務課長から資料に基づき R5 年度及び 6 年度の履修者数の報告が次のとおりあった。 R6 年度の入学者は、R5 年度に比べ 42 名減少している。「AI 社会論」と「データサイエンス概論」を受講している者は、全員専門科目の「情報機器演習」（児教・食栄）と「情報活用」（教養学科）を受講していることから、「AI 社会論」と「データサイエンス概論」を受講している者が当該プログラムの修了要件を満たすことになる。（福祉は当該選択必修科目受講者は 0 人） R5 年度と R6 年度の入学者に対する履修者割合（全体）を比較すると R5 年度入が 56%で R6 年度入が 50%と減少している。 2 年次科目の「データサイエンス演習」と「AI プログラミング」は、今年度が開講初年度で比較検討はできないが、全体でそれぞれ 8 名と 36 名である。 以上の説明の後、履修者増に向けて検討が行われ、一般科目の「AI 社会論」と「データサイエンス概論」は後期にも配置されていることから、後期の履修確認・指導期間が 8 月 8 日～9 日に設定されているので、その際にユニパにて履修案内を徹底することが確認された。 （授業評価アンケートの分析） 近藤委員長から、当該教育課程の授業評価アンケートについて分析願いたい旨の説明の後、濱田教務課員から、資料に基づき次のとおり報告があった。 質問項目は 20 項目で、専門科目（情報機器演習、情報処理、情報活用）は過去 3 年分を比較している。また、特に重要と思われる質問項目 19・20 を抜粋して一覧表にまとめた。一般教養科目（AI 社会論、データサイエンス概論）は R5 年度から前後期に開	

	始されたもので、比較はできていないが、コメント部分を抜粋したものを資料として添付している。 引き続き意見交換が行われ、次のような結論となった。 設問 19「この授業を総合的に次の 5 段階で評価してください。」に関しては、「情報機器演習」は、3 か年とも、「どちらかというが良い」と「良い」で 90%以上を占めている。「情報処理」は対象となる人数が少数で年度により変動はあるが、直近 2 年は 90%前後で推移している。「情報活用」は、令和 3 年度は 70%であったものが年々増え、令和 5 年度は 93%を占めるに至っている。 一般教養科目（AI 社会論、データサイエンス概論）は、両科目とも「どちらかというが良い」と「良い」で 90%前後を占めており、相対的に当該教育課程に係る授業は全て良い授業評価を受けている。 設問 20「この授業の主要な到達目標（カリキュラムマップ参照）について、自分の達成度を次の 5 段階で評価してください。」に関しては、「情報機器演習」は、3 か年とも、「おおむね達成できた」と「十分達成できた」で 90%前後を占めている。「情報処理」は対象となる人数が少数で年度により変動はあるが、直近 2 年は 80%前後で推移している。「情報活用」は、令和 3 年度は 76%であったものが、4 年度、5 年度は 88%に増えている。 一般教養科目（AI 社会論、データサイエンス概論）は、両科目とも「おおむね達成できた」と「十分達成できた」で 80%前後を占めており、相対的に当該教育課程に係る授業は全て良い授業評価を受けており、相対的に学生自身の達成度は良い傾向にある。 コメントについては、一般教養科目（AI 社会論、データサイエンス概論）両科目とも肯定的な意見が多く、学生自身の質の向上に大いに役立つものと思われる。 以下、コメント抜粋 （A I 社会論） 良い点 ・人工知能が人間を超えるか超えないかみたいなのところがおもしろかった ・パワーポイントを利用した説明だったからわかりやすかった ・将来 AI はどうなっていくのかというのが面白かった。 悪い点 ・マイクの音量が大きすぎるときがあった。 （データサイエンス概論） 良い点 ・パワーポイントで先生の分かりやすい説明があって良かった。 ・レポートで評価がつけられること。統計やグラフの選び方について細かく学べたこと。 ・データの授業で今後の就職した時などに使えるのでそこがよかったです。 悪い点 ・スクリーンで写すため表やグラフの値が小さくて見にくい。 ・授業自体の内容は良かったと思う。もう少し実務的な事を入れると良いと思った。 4. 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度への申請について 近藤委員長から、文科省の数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度への申請について諮られ、教務課長から資料に基づき説明があり、申請することが了承された。 5. その他 特になし
--	---